

公民部会

研究主題 「公民的資質を伸ばす個に応じた指導を充実させるための
授業改善のポイントについて」

I 主題設定の理由

平成17年度の「東京の教育21」研究開発委員会の高等学校共通研究主題として、「個に応じた指導の充実を図る指導内容・方法の研究開発」が設定されている。これを公民科にあてはめたものが、本部会の研究主題である。このうち、「公民的資質」とは、学習指導要領の公民科の目標に照らすと、「民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質」を意味する。ある程度の知識の獲得は必要であるが、それに留まることなく生徒自身が現実の社会において諸課題を発見し、客観的資料を収集して分析し、解決方法を考察して、自らの言葉で表現することにより、自己の公民としての資質を高めていくことができるようにすることが重要である。

こうした公民としての資質を伸ばすためには、「個に応じた指導」の充実が不可欠である。従来知識注入型の授業では対応できないことは自明であるが、一斉指導の授業形態が現実である多くの学校において、「個に応じた指導」をどのように実現していくかは、大きな課題である。本部会では「個に応じた」の意味を生徒各自の身近な体験・経験に基づいて学習内容への関心や問題意識を喚起し、自己の課題として主体的に考察すること、と捉えた。

授業改善については、学校経営計画に基づく年度当初の年間授業計画・評価計画の作成から、授業の実施、それに対する生徒による授業評価、教員相互の授業計画・協議と助言、そしてそれを踏まえた学習指導の工夫・改善、校内研修の実施という一連の流れをサイクル化することにより、授業力の向上を図ることが求められている。

本部会では、開発委員の勤務校における実践例に即して、具体的に研究を進め、特に2、3年目の若手教員に授業改善の枠組みとして「授業改善のポイント」を提供することを目指して、この主題を設定した。

II 研究の視点

- 1 学習指導要領の趣旨を踏まえ、個に応じた指導の充実を図り、生徒一人一人に公民的資質が身に付くような授業改善の方策を、具体的な事例を通して研究する。
- 2 「授業改善のポイント」を整理し、明確な「授業改善のポイント」をもった研究授業を行い、その成果を生徒による授業評価により検証し、今後の授業改善の方向性について考察する。

Ⅲ 研究の方法

平成15年度に全国の高校生を対象に行われた「教育課程実施状況調査」（国立教育政策研究所）の調査結果を踏まえ、同研究所では概略以下のような公民科の「指導上の改善点」を提起している。

- ア 地理的分野と歴史的分野の学習の成果を生かした学習指導の工夫
- イ 追究の仕方を身に付けさせる学習指導の工夫
- ウ 見方や考え方を形成する基本的な概念を身に付けさせる学習指導の工夫
- エ グラフなどの資料を読み取り、表現させる学習指導の工夫
- オ 調べ学習に意欲的に取り組み、成就感を得られる指導の工夫

本部会ではこの提起に検討を加え、現在の都立高校の生徒に「公民的資質」を醸成するために必要な授業改善の方向性について協議した。その結果、「指導上の改善点」を具体化し、生徒に「公民的資質」を醸成するためには、以下のようなポイントで公民科の授業改善を実施することが必要であると考えた。

なお、本部会としては基本的かつ具体的な知識・理解が不足している生徒が増加していることにも留意すべきであると考えた。この問題の解決なくして、生徒の主体的な学習は成り立たないからである。

授 業 改 善 の ポ イ ン ト	
前提	<p><基本的・具体的な知識とそれに対する理解を充実させる></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小・中学校段階で修得すべき知識を確認させる。 2 高等学校段階での修得すべき基本的知識を確実に身に付けさせる。
①	<p><公民的な見方・考え方を身に付けさせる></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「比較」によってそれぞれの事柄の特質を見出したり、他の事柄を類推したりできる。 2 因果関係をはじめ対立・矛盾などの事柄相互の「関係」をとらえることができる。 3 他人の意見をよく聞いて理解することができる。 4 対立する意見は両方理解し、相対化・客観化してとらえることができる。
②	<p><資料・データを読みとり、考察したことを表現させる></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 データを基にグラフを作成し、データとグラフとの関係を確認することができる。 2 グラフの数値の変化から、社会事象の発生や経過について気付くことができる。 3 考察したことを自分の言葉で説明することができる。
③	<p><調べ学習に意欲的に取り組み、成就感を得られるようにする></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業者は、生徒の興味・関心を喚起する適切な課題を設定する。 2 授業者は、調査結果を発表させ、調査した事柄を関連付けさせる。

IV 研究の内容

1 A高校の事例

(1) 授業改善の課題と視点

今までの倫理の授業では美と芸術について取り上げてきたが、これまで行ってきた授業においては、古代ギリシア・ローマにおける美の理念や、ロマン・ロランの描くベートーベン像など音楽家、その他さまざまな美術や文学に業績を残した人物像と生き方を描くことが一般的であった。この手法はいわゆる系統型学習の授業であるが、倫理の学ぶべき重要な課題のもう一つの内容はそれぞれの課題についてその意味を考えることである。すなわち、見方や考え方を形成する基本的な概念を身に付けさせる学習指導の工夫の一環として思考力を身に付けさせる学習法も取り入れる必要がある。そこで、倫理における授業改善として「美とは何か」という思考学習を通して、思考力を陶冶することで知識力の育成にも結実する授業改善の方法を模索する必要がある。

(2) 授業改善の実施

ア 対象：第2学年 倫理

イ 主題 「人間にとって最も美しいもの」

ウ 主題設定の理由

- ・ 日ごろ、人間の在り方等について深く考える機会が少ない生徒に「人間にとって最も美しいもの」というテーマを与え、自分自身で考え、追究する学習活動を行う必要がある。
- ・ グループ活動による意見交換やディスカッションを通じて、他の生徒の考えを正しく理解し、自分の意見を確実に伝えられるような態度を育成したい。

エ 単元の指導計画

- ・ 人間にとって最も美しいもの（2時間）本時
- ・ 古代ギリシアの自然哲学（1時間）
- ・ ソクラテス（1時間）
- ・ アリストテレス（1時間）

オ 本時の目標

- ・ 自分の考える「人間にとって最も美しいもの」を教科書・資料集を参考に考え、分かりやすい言葉で表現する。
- ・ 意見交換やディスカッションを通じて、「人間にとって最も美しいもの」について考える。

カ 本時の展開

注：（ ）内は、「授業改善のポイント」の各項目を指す。

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	・ 生徒の小論文の紹介	・ 「人間にとって最も美しいものとは何か」について小論文の要約から本日の学習活動の課題について把握する。(③1)	
	・ ワークシートに記述した内容を読み返し、小論文を	・ 教科書・資料集の思想家の考え方なども参照しつつ、小論文	・ 机間指導を行いながら、自分の考え方をまとめやすくなるよ

展 開	完成させる。 ・グループ協議 ・グループ発表	を完成させる。 ・完成論文を1人ずつ発表し、その見解について教室でディスカッションを行う。(②③) ・見解の共通する生徒どうしてグループを作り、共通見解を練り合わせる作業を行う。(①③) ・グループ発表の準備を行う。 ・代表者がディスカッションの経緯や結論を発表する。(③②) ・各自が発表を聞いて考えたことをレポートに記述する。(①③)	う助言する。 ・周囲の生徒と相談せず、一人で考えるように指導する。 ・すべての生徒がグループに所属できるように配慮する。 ・より高次の意見に高められるように、机間指導を行いながら助言する。
ま と め	・レポートの紹介	・授業者がレポートに記述された内容を読み上げ、生徒自身が見出した題材として紹介する。	・複数のレポートを紹介し、様々な見方や考え方があることに気付かせる。

(3) 生徒による授業評価

今回の授業に対する生徒による授業評価の主な内容は、以下のとおりである。

- ア 自分の考える「人間にとって最も美しいもの」を分かりやすく表現することができたか。
- イ 意見交換やディスカッションを通じて、他の生徒の意見を正確に理解し、自分の意見や考えを率直に伝えることができたか。
- ウ グループでの意見交換やディスカッションを通じて、最初に考えた「人間にとって最も美しいもの」をより高次の考え方に発展させることができたか。

これに対し、関心、参加意欲、思考力、判断力、資料活用、表現力、知識、理解力の8つの項目に対して、4段階の評定尺度によって授業評価を行った。各項目の最高点は4点であり、最低点は1である。参加生徒による評価の平均は、次のとおりであった。(△は評価が高く、▲は低い)

NO.	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
項目	関心	参加意欲	思考力	判断力	資料活用	表現力	知識	理解力
数値	2.65	2.73	3.00	2.78	2.17	2.73	2.69	2.69
		△	△		▲	△		

(4) 今後の授業改善

この生徒による授業評価に見られる傾向性は、思考力、参加意欲、表現力の数値が高いことに対して、資料活用の数値が最も低く表れている。この数値結果は、思考力を養い、各自の考えを互いに理解しあい、コミュニケーション力を涵養するという目的に関係の深い項目では評価が高い反面、資料を活用するという知識的な側面の育成が弱いということを表している。

今後の授業の改善と展開の方向という視点からみると、この数値は知識力と思考力の双方をバランスよく育成していく必要性を表している。公民科では知識力と思考力の双方を振り子のように往復する授業と、そのつどの授業評価による成果チェックを通してフィードバックしつつ、公民科的資質の育成を進めていくことが重要と考えられる。

2 B高校の事例

(1) 授業改善の課題と視点

公民科においては、生徒が様々な社会事象に関心をもち、自分自身の身近な問題として考えるよう指導することが重要であるとともに、客観的な資料から社会事象の考察を行い、その過程や結果について、生徒自身の言葉で適切に表現する態度と能力を育成することが求められている。授業に当たっては、以下のようなことを課題として考えていかなければならない。

ア 教えるべき事項をどう精選するか（興味や関心を維持するためには精選が必要である）。

イ 社会事象が自分自身と関連があることをどのように実感させるか。

ウ 生徒自身の考えを生徒自身の言葉でどう表現させるか。

日ごろから生徒たちには、情報を整理して解説し、理解を深めさせることによって様々な社会事象について興味・関心をもたせるよう努めてきた。その際には、様々な違う立場から事象を考えさせることによって、生徒たちの「常識を見直し」ながら授業を進めることを意識してきた。

この単元においても、そうした立場の違いについては強く留意したつもりである。また、歴史的事項や制度的事項を精選する必要があると考え、統計や図表によって現状を理解させようと試みた。さらに、生徒自身の言葉で自身の考えを表現させるよう、立場を変えて「せりふ」で表現させることや、進路指導と連携して自らの進路と合わせて考えられるような題材を用意した。さらに、文献資料を併せて活用することにより、より理解が深まるように工夫するとともに、キャリア教育を教科指導の中で実践する試みとして有効なものとなるように努力した。

(2) 授業改善の実施

ア 対象：第3学年 政治・経済

イ 主題 「雇用と労働問題」

ウ 主題設定の理由

近年の厳しい経済情勢の中で、雇用をめぐる情勢が大きく変化していることを様々な統計資料や文献から理解させる。特に、成果主義の進展について賃金を例にとって考察させ、そうした時代に必要な能力と資質を、自らのキャリア形成について考えさせながら、生徒自身の言葉で表現させる。

エ 単元指導計画

日本の労使関係と労働基本権 (2時間)

日本型雇用慣行の変容と労働市場の現状 (1時間)

年功制から年俸制へ (1時間)

これからのキャリア形成について考える (1時間) 本時

オ 本時の目標

能力重視の成果主義が広まる中で、近年の雇用をめぐる文献や統計資料を参考にしながら、これからの成果主義の時代の中で、職業を通じた自己実現を図るためには、どのような資質や能力が必要か、生徒自身の在り方生き方の問題として考えさせる。

カ 本時の展開

注：() 内は、「授業改善のポイント」の各項目を指す。

	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	・前時の復習	・成果主義の問題点を整理した上で、これからの時代に必要な資質や能力について、自分自身の問題として考える。(③1)	・様々な観点からの資料を示し、考える際の参考となるようにする。
展 開	・これからの成果主義の時代に必要な能力や資質を考える	・日本と米・英・独の雇用管理の模式図から、能力主義と平等主義、会社優先主義と個人優先主義について整理する。(①2) ・フリーターや労働経済学者などの資料(文献)を読みながら、自分の考えともっとも近いものを参考にして、各自の意見を発表する。(①3、②3)	・指名により発表させる。
ま と め	・本時及び単元のまとめ	・単元全体について振り返り、生涯にわたるキャリア形成の重要性を認識する。	・まとめとしてのレポート作成を指示する。

評価の観点

- ・与えられた課題について積極的に考え、自己の職業に対する意識を高めることができたか。(心・意欲)
- ・様々な資料を読み取り、自己の考えをまとめて発表することができたか。(思考・判断、技能・表現)

(3) 生徒による評価

「生徒による授業評価」は、「政治・経済」を受講している3年生全員を対象に実施した。質問項目は、本校の全教科共通項目に加えて、本部会が一単元を単位として授業改善に取り組むこととしたために、本単元に関する質問項目を付け加えて実施した。評価は「A/そう思う(よくできた)」「B/大体そう思う(まあよくできた)」「C/あまり思わない(あまりできなかった)」「D/思わない(できなかった)」の4段階評価とし、自由記述欄も設けた。(△は評価が高く、▲は低い)

NO.	問1	問2	問3	問4	問5
項目	知識理解	知識理解	知識理解	関心意欲	関心意欲
数値	3.00	3.34	2.78	2.71	2.82
	△	△			
NO.	問6	問7	問8	問9	問10
項目	表現力	資料活用	資料活用	思考判断	思考判断
数値	2.36	2.93	2.47	2.58	3.10
	▲		▲	▲	△

(4) 今後の授業改善

まず、評価結果が低かった「資料を活用し表現する能力」をどのようにして向上させるかが課題である。生徒たちは、文章表現を面倒がる傾向がある上に、複数の文献から自他にかかわる共通項を見出すことは、読解力の差異も影響を及ぼす部分もあるので、さらにきめ細かい指導が必要である。しかし、生徒自身の自己評価が低かったとはいえ、十分に自分のキャリアデザインを見据えて記述されているものも多く見られた。また、生徒に示す文献資料の客観性をどう保つかも大きな課題である。実際今回も、生徒は目標をもって働いているいわゆる「よいフリーター」には、予想以上の共感と理解を示した。単に、立場や状況を説明する以上の影響を考え、資料選択には十分な注意を払わなければならないと痛感した。さらに、文献に限らず同窓生や大学生、起業家の話や視聴覚教材など文献以外での情報提示も重要になってくるだろう。いずれにせよ、より客観的で良質な資料を提示し、生徒の内面に新たな「気付き」をどう引き起こすかは、資料を提示する側の力量にかかっている。日ごろから私たち公民科の担当者が、教科のなかで生徒たちに自身の在り方生き方を考えさせる指導を心がけていく必要があるだろう。

生徒による授業評価の質問項目

No.	項目	内 容
問1	知識理解	労働関係と雇用情勢が変化していることについて理解できましたか。
問2	知識理解	年功制と年俸制の内容（長所や短所）について理解できましたか。
問3	知識理解	成果主義（能力主義）が進展した際の課題（問題点）について理解できましたか。
問4	関心意欲	現代の労働関係や雇用情勢の変化について関心が高まりましたか。
問5	関心意欲	自分が成果主義の時代に必要な能力・資質について考えることができましたか。
問6	表現力	課題プリントで、自分の意見や考えた結果をうまく文章で表現できましたか。
問7	資料活用	資料①～⑤を読んで、共感や反論をもつことができましたか。
問8	資料活用	資料①～⑤を読んで、自分がどのように働いていくかをまとめられましたか。
問9	思考判断	自分のキャリアデザインを形成する参考にできましたか。
問10	思考判断	授業で学んだことが、これから自分が働いていく際の参考になりましたか。

3 C高校の事例

(1) 授業改善の課題と視点

「現代社会」は、社会における様々な課題を生徒自身が発見し、調査・分析し、対策を考え、自らの意見を形成する能力を育成することに大きな役割をもつ科目である。インターネットや情報通信技術の急激な発達により、学校の中で行える情報収集の範囲は大きく広がった。しかし教科「情報」の必修化により、多くの高等学校では「情報科」以外の科目が授業の中でコンピュータを利用することが施設の面から以前よりも難しくなっている。以下の指導案はそのような状況の中で公民科としてどのように情報機器や通信技術を授業の中で利用できるかを考案したものである。

(2) 問題解決能力育成のための授業改善の実施

ア 対象：第3学年 現代社会

イ 主題 生命工学の発達と私たちの生活 - 遺伝子組み換え食品 (GMO) に焦点を当てて

ウ 主題設定の理由

日本における GMO (Genetically Modified Organism) の表示規制は、平成 13 年 4 月より開始された。GMO 大豆・なたねなどは、醤油やサラダオイルなど私たちの生活にとって欠かせない多くの食品に使用されている。日本農業規格法 (JAS 法) における表示規制では、加工食品の原料に占める割合が重量で 5% 未満の場合と、醤油、食料油については表示義務がない。

しかし、このような事実を知らずにこれらの食品を買っている消費者も少なくない。この問題は、急激な科学技術の発達とその利用、消費者問題、農業・食料問題、南北問題、日米貿易摩擦等と関係しており、身近なものの中に多種多様な政治・経済・社会的問題がからんでいる典型的な例である。問題解決学習を行うに当たり格好のテーマであると考え。 (なお、本校は新設校であり、現在 1 年生のみ在籍しているため、この指導案は現時点では実施されていない。)

エ 単元の指導計画

「現代社会」学習指導要領 第一編

現代に生きる私たちの課題 科学技術の発達と生命の課題 (1 時間) 本時

オ 本時の目標

- ・ 日本における GMO 販売に対する法規制について認識し、問題点を把握する。
- ・ GMO の生産・流通・販売過程に数多くの政治・経済・社会・地理的問題が絡んでいることを認識する。
- ・ 討論を通じて、日本における法規制の改善策や消費者としての在り方を考察する。

カ 本時の展開

注：() 内は、「授業改善のポイント」の各項目を指す。

	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・ GMO の利点と安全性 ・ 日本における GMO に対する法規制	・ 指導者の解説を聞く。 (前提、③1)	・ 指導者の価値判断を示さず事実のみ簡略に伝える。 ・ GMO に関する理科、家庭科での学習状況を事前に把握しておく。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ GMOの輸入状況 ・ GM大豆と非GM大豆の東京穀物取引市場における価格変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットでGMOに関するサイトを調べ、その輸入状況を調べる。(①1) ・ 新聞の縮刷版かインターネットで、平成12年から平成16年の年末における価格を調べる。(②1、②2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを使用する場合は、個々の生徒にすべての年次について調べさせ折れ線グラフを作成させる。 ・ インターネットを利用できない場合は、学校図書館で調べさせる(以下同様)。 ・ 新聞を使用する場合はクラスを5班に分け、調査年次ごとに割り振って調べさせ、折れ線グラフを作成させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各国のGMO表示規制法 ・ 日本のGMO表示規制の是非 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットでOECD加盟諸国における表示方法を調査する。(①2) ・ 2種類の食品に対しては表示義務を課していないことの是非をクラス全体で討論する。(①3、①4、②3、③2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班分けをしてアメリカ、EU、韓国等における表示方法を分担して調査させる。 ・ 意思に反してGMOを買わざるを得ない消費者の存在に気付かせる。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート作成の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅で各自の意見を800字以内の小論文にまとめる。(③2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小論文作成のルールを記載したプリントを配布する。

(3) 今後の授業改善

授業を実施する前に、学校図書館やインターネットの利用・活用について十分に指導し、生徒の情報活用能力を高めておくことが大切である。なお、コンピュータ教室が利用できない場合には、

- ① 指導者が事前に調査した資料をプリントにして配布する
- ② 学校図書館司書に関連資料の準備を依頼し、生徒に調査させるなどの方法をとることで対応する。

V 研究のまとめ

1 成果

本部会ではベテラン教員が無意識のうちに行っている授業改善を意識的にとらえ、具体的な授業改善の枠組みとして明らかにすることを中心に検討した。多くの教員にとって自明のことであっても、今回話し合われた中で特に留意したい点を以下に整理しておく。

(1) 公民科が目指す学力—形成すべき「公民的資質」について再確認し、共通認識とすること

具体的には、①客観的な資料・データを読み取って「気づき」、洞察し、相対的に認識できる「問題発見能力」を養うこと、②「公民的な見方・考え方」を深めさせること（「公民的な見方・考え方」について対立する意見は、必ずその両方を理解し相対化・客観化してとらえた上で、より高次の意見に発展できるように指導していくことが大切である。）、③自分の考えを適切に表現する能力と態度をもつこと（「論文」にまとめる、「自分の言葉で説明できる」など）、④他人の意見をよく聞く・聞きあうことができる（「相互の学び」）、などが挙げられた。

(2) 「授業改善」について

授業改善を考える際、各現場で生徒の実態把握に基づく課題設定を明確にし、在学期間を通じて卒業時にはどんな力を付けて送り出すのかを検討する段階、それに基づいて年度単位で検討する段階、さらに単元単位で検討する段階、という3つの段階がある。全体的な位置付けの中で、「単元単位」での授業改善のサイクル（計画→実践→評価→改善）を確立し、意識的に行うことが必要である。

(3) 「単元単位での授業改善」に向けての留意点

①学習単元ごとにねらいを明確化して具体的な評価基準を設定し、それに対応した評価方法・評価手段をあらかじめ準備すること。これが生徒による授業評価と併せて授業改善のための基準となる。②公民科の抽象的な基本的概念をよりよく理解するために、生徒にとって身近で日常的具体的な事例を教材化すること。③課題追究学習においては、図書館・インターネットの活用と合わせ、課題追究の過程そのものから学び方自体を身に付けられるよう工夫すること。④「関係」をとらえる力・「比較」により特徴をとらえる力を発揮させる場面を取り入れるよう工夫すること。

(4) 「検証授業」から確認されたこと

①「聞きあう」ことで生徒が自分とは異なる意見も受け入れて成長していることがうかがえ、非常に有効であった。②生徒が主体的に考える学習では、教員が安易に結論を与えると、生徒の思考はそこで止まってしまうので、ヒントにとどめ、生徒がさらに問いを深めるためにも、あえてきれいに収束させずに余韻を残しておくことも必要である。③よりよく考え表現するためには、結局前提となる「知識・理解」を充実させることが基本であり、「資料」を読み込み、再び考え表現することをバランスよく繰り返すことが不可欠である。

2 今後の課題

今後の課題は、想像以上に大きくなっている生徒の学力の多様化への対応であろう。「知識・理解」を中心とする学力差も拡大しており、一斉授業では対応できない状況に達しつつある学校もある。そうした学校での授業改善とは何か。一斉授業の枠組みの中でも可能で有効な創意工夫を追究することが必要となるであろう。